

漁海況速報

8-No. 27

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和8年 9月25日～10月 1日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東30マイル付近を北東に流れ、
36°30'N 142°30'E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、21～24℃台の水温となっている。

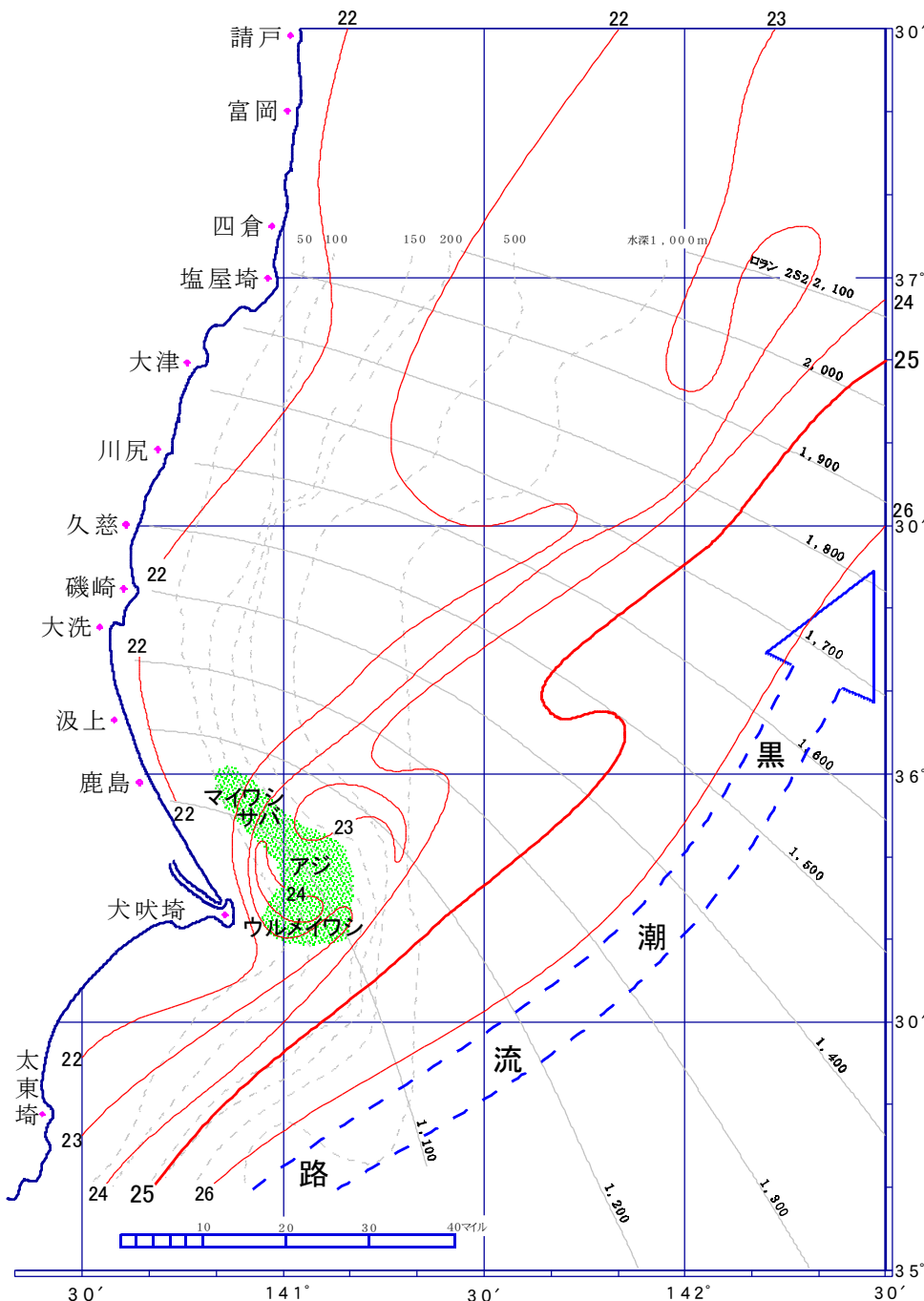
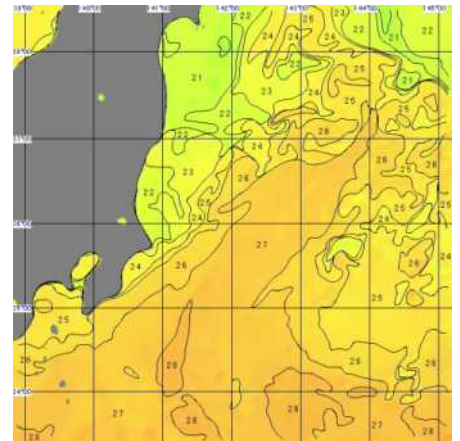
那珂湊定地水温(℃)

日	年 令 8	令 7	平年
9/25	21.6	23.8	21.7
26	21.6	23.4	21.6
27	欠測	23.7	21.5
28	21.6	23.3	21.4
29	21.5	23.5	21.4
30	21.4	23.2	21.3
10/1	21.2	23.1	21.2
平均	21.5	23.4	21.4

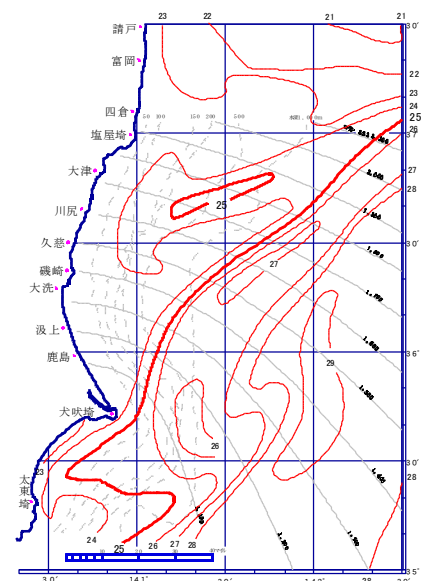
30年平均: 1991～2020年

令和8年 9月25日～10月 1日

【1週間合成衛星画像】



【海況図】



令和7年 9月26日～10月 2日

【海況図】

漁 況 の 特 徴

8 - No. 2 7

属地、単位＝四捨五入

9/24～9/30

魚 種	漁 法	組合名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船 曳 網	久慈浜丸小	9,206	589	5,418,805	28
	"	久 慈 町	7,648	563	4,304,585	19
	"	那 珂 湊	1,536	524	804,500	7
	"	大 洗 町	60,427	518	31,317,194	154
	"	は さ き	40,676	579	23,537,658	80
ヒラメ	小底5t以上	平 潟	4	163	650	
	固定式刺網	久慈浜丸小	23	1,394	31,500	
	"	久 慈 町	11	582	6,630	
	"	大 洗 町	14	2,039	27,520	
	その他釣り	平 潟	132	2,070	272,790	
	"	久 慈 町	4	1,000	4,300	
	"	那 珂 湊	50	2,456	121,570	
	"	は さ き	1	1,500	1,800	
	大型定置網	会 瀬	3	2,113	6,550	
マコガレイ	小底5t以上	平 潟	2	525	1,050	
タイ類	小底5t以上	平 潟	743	410	304,669	
	"	那 珂 湊	177	550	97,399	
	固定式刺網	大 洗 町	670	564	378,032	
	その他釣り	平 潟	27	558	15,294	
	"	那 珂 湊	1	1,400	1,960	
	大型定置網	会 瀬	457	746	340,870	
スズキ	その他釣り	は さ き	2	600	900	
アナゴ	小底5t以上	平 潟	54	720	39,077	
	"	川 尻	16	371	5,780	
	"	久 慈 町	70	238	16,640	
	"	那 珂 湊	8	1,333	10,530	
アンコウ	小底5t以上	平 潟	20	248	4,830	
	"	川 尻	89	189	16,800	
	"	久 慈 町	426	164	69,770	
	"	那 珂 湊	107	652	69,460	
ホウボウ	小底5t以上	平 潟	352	705	247,875	
	"	那 珂 湊	128	689	88,002	
フグ類	小底5t以上	平 潟	67	2,229	148,207	
	"	那 珂 湊	7	1,945	14,390	
	延 縄	大 洗 町	10	3,000	30,600	
	その他釣り	那 珂 湊	2	1,200	1,920	
サワラ	その他釣り	久 慈 町	2	1,000	1,700	
	"	那 珂 湊	35	1,923	67,130	
イセエビ	固定式刺網	平 潟	55	4,151	227,908	
	"	川 尻	1,185	3,124	3,701,640	
	"	会 瀬	89	3,717	330,470	
	"	久慈浜丸小	413	3,695	1,526,520	
	"	久 慈 町	372	3,496	1,300,970	
	"	大 洗 町	335	4,540	1,521,000	
ヒラツメガニ	固定式刺網	大 洗 町	2	1,500	3,000	
スルメイカ	小底5t以上	平 潟	18	372	6,700	
	"	川 尻	2,303	463	1,065,960	
	"	久 慈 町	5,090	451	2,293,060	
	"	那 珂 湊	1,596	722	1,152,196	
ヤリイカ	小底5t以上	平 潟	1	2,090	2,090	
	"	川 尻	10	453	4,300	
	"	那 珂 湊	3	1,352	3,380	
マダコ	小底5t以上	平 潟	15	246	3,760	
	"	那 珂 湊	6	1,049	6,190	
	固定式刺網	大 洗 町	1	1,500	1,950	
マアジ	小底5t以上	平 潟	1,394	162	225,123	
	"	川 尻	48	100	4,760	
	"	久 慈 町	201	295	59,385	
	"	那 珂 湊	105	589	62,030	
	固定式刺網	大 洗 町	306	827	252,974	
	その他釣り	平 潟	6	400	2,560	
	大型定置網	会 瀬	40	900	36,270	
	まき網	は さ き	30,706	300	9,226,100	
サバ	小底5t以上	川 尻	61	109	6,630	
	"	久 慈 町	3	39	124	
	"	那 珂 湊	7	200	1,480	
ブリ類	小底5t以上	平 潟	8	246	1,940	
	固定式刺網	大 洗 町	5	694	3,125	
	その他釣り	久 慈 町	28	73	2,060	
	"	那 珂 湊	120	577	69,240	
	大型定置網	会 瀬	236	941	221,835	

注 延隻数:銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

◎

まき網

(漁獲は1投網当り)

マイワシ・・・鹿島の東北東10マイル付近から犬吠埼の東南東10マイル付近で1～40トンの漁獲。

サバ・・・・・・八戸の東北東20マイル付近から東20マイル付近で1～10トン、鹿島の東北東10マイル付近で3トン(1ヶ統)、犬吠埼の東北東10マイル付近で1～25トンの漁獲。

アジ・・・・・・鹿島の東南東15マイル付近で1トン(2ヶ統)、犬吠埼の東5マイル付近で1～20トンの漁獲。

ウルメイワシ・鹿島の東北東10マイル付近で1トン(1ヶ統)の漁獲。

イカ・・・・・・八戸の東北東20マイル付近で1～4トンの漁獲。

◎

小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船 曳 網

シラス・・・・・・大津地先から高戸地先で2～99kg、日立地先で111～1,026kg、那珂湊地先から鹿島地先で17～1,038kg、波崎地先で49～1,093kgの漁獲。

カエリ・・・・・・大津地先から高戸地先で250～1,675kgの漁獲。

◇曳 釣 り

平潟地先でヒラメ5～10kg、久慈浜地先から大洗地先でヒラメ1～5kg、イナダ1～15kg、サワラ2～5kg、マゴチ1kg前後の漁獲。

◇建 網

鹿島地先でヒラメ、イセエビ混じり14～73kgの漁獲。

底魚資源調査（夏季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚類の資源動向を把握するため、平成15年から漁業調査指導船いばらき丸（224t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により本県海域の現存量を推定しています。今回は令和8年7～8月に実施した夏季調査結果についてお知らせします。

1 主要な底魚類の推定現存量の推移

平成28年度から今年度までの現存量の推定結果を表1に示しました。資源水準については過去20年の調査で推定された現存量と比較して、今回の現存量が上位75%以上であれば高位、25%以上75%未満を中位、25%未満を低位としました。マコガレイ、ムシガレイについては浅海域における現存量を正確に評価できないため、「茨城県産重要魚類の生態と資源」（令和8年3月更新、水試HP）で報告している資源水準としました。直近5年間の推定現存量の推移を元に、漁獲対象種の推定現存量の増減傾向（以下、増減傾向という）を判定した結果、増加傾向にあるのはアオメエソ（めひかり）、チゴダラ（どんこ）、マダラ、アカムツの4種、横ばい傾向にあるのはヤナギムシガレイ、ババガレイ（なめた）、ヤナギダコ（水だこ）、ユメカサゴ（のどぐろ）、など8種、減少傾向にあるのは、マコガレイ（本まこ）、ムシガレイ、ミギガレイ（にくもち）、キチジ（あかじ）の4種でした。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこざめ）は減少傾向、テナガダラ（とうじん）は横ばい傾向でした。

表1 推定現存量の推移（夏季トロール調査）

表 現存量の推移（夏季トロール調査）														（単位：トン）	
	魚種/年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	増減傾向	水準	過去10年平均
漁獲対象種	ヤナギムシガレイ	127	71	64	45	27	23	28	48	13	30	27	横ばい	中位	48
	ババガレイ（なめた）	96	79	70	49	25	17	52	77	27	11	87	横ばい	高位	51
	アカガレイ（赤がれい）	109	29	10	1	2	1	0	1	0	0	15	横ばい	中位	14
	マコガレイ（本まこ）	29	26	19	50	14	18	5	6	0	1	1	減少	低位	17
	マガレイ（沖まこ）	62	77	1	0	1	0	0	0	0	0	0	横ばい	低位	16
	ムシガレイ	135	155	92	152	115	228	143	245	95	98	54	減少	中位	135
	ミギガレイ（にくもち）	162	111	105	85	36	46	77	53	37	28	25	減少	低位	73
	ヤナギダコ（水だこ）	199	217	270	111	68	77	57	244	120	14	69	横ばい	低位	148
	アオメエソ（めひかり）	312	193	260	57	110	160	191	585	463	262	1,381	増加	高位	240
	チゴダラ（どんこ）	387	242	151	157	130	223	80	227	99	131	289	増加	高位	180
	マダラ	142	16	56	3	4	0	2	15	1	0	13	増加	中位	35
	アカムツ	22	23	14	24	15	13	13	23	19	20	87	増加	高位	19
	ユメカサゴ（のどぐろ）	32	111	189	78	30	37	70	79	98	41	85	横ばい	高位	72
	キチジ（あかじ）	46	35	8	2	23	9	4	23	2	1	1	減少	低位	17
参考	マアナゴ	48	31	35	19	26	20	7	23	4	4	13	横ばい	中位	23
	マトウダイ	70	34	5	29	17	18	20	33	7	16	16	横ばい	中位	25
	トラザメ（ねこざめ）	960	1,603	1,231	1,629	1,027	1,077	385	290	197	284	27	減少	－	891
	テナガダラ（とうじん）	1,126	907	1,113	2,116	340	1,210	1,937	507	157	1,186	198	横ばい	－	1,560
	スルメイカ	37	26	58	15	25	14	1	31	57	26	40	増加	－	29

2 今年度と昨年度調査結果の比較

今年度と昨年度（令和7年度）の調査時に行った増減傾向の判定結果を比較した結果、アカムツは昨年度同様に増加傾向であり、アオメエソ（めひかり）、チゴダラ（どんこ）、マダラが横ばいから増加に転じました（表2）。また、ババガレイ（なめた）、アカガレイ、マアナゴ、マトウダイでは推定現存量の増加に伴って傾向が減少から横ばいに転じました。昨年度は一昨年度に比べて横ばいや減少を示す魚種が多くなりましたが、今年度は増加を示す魚種が多くなりました。

これらの増減要因を解明していくため、水産試験場では今後も資源動向のモニタリングを継続していくとともに、資源の持続的な利用に向けて調査研究を進めていきます。

表2 R7年度とR8年度の傾向の比較

	魚種/年度	R7傾向	R8傾向
漁獲対象種	ヤナギムシガレイ	横ばい	横ばい
	ババガレイ（なめた）	減少	横ばい
	アカガレイ（赤がれい）	減少	横ばい
	マコガレイ（本まこ）	減少	減少
	マガレイ（沖まこ）	減少	横ばい
	ムシガレイ	減少	減少
	ミギガレイ（にくもち）	減少	減少
	ヤナギダコ（水だこ）	横ばい	横ばい
	アオメエソ（めひかり）	横ばい	増加
	チゴダラ（どんこ）	横ばい	増加
	マダラ	横ばい	増加
	アカムツ	増加	増加
	ユメカサゴ（のどぐろ）	横ばい	横ばい
	キチジ（あかじ）	減少	減少
	マアナゴ	減少	横ばい
	マトウダイ	減少	横ばい
	増加合計	1	4
	横ばい合計	6	8
	減少合計	9	4

3 スルメイカの日齢査定結果について

茨城県では、長年底曳網によるスルメイカの不漁が続いていましたが、R7年漁期（R7年9月～R8年6月）の漁獲量は650トン（前漁期72トン）と大きく増加しました（図1）。これを受けて、水産試験場ではスルメイカの市場調査や着底トロール調査を重点的に行ってきました。この結果、今年度漁獲されたスルメイカの体の大きさ（外套背長）の分布に2つの山が見られたことから、同時期に孵化時期の異なる個体が混在している可能性に着目しました（図2）。

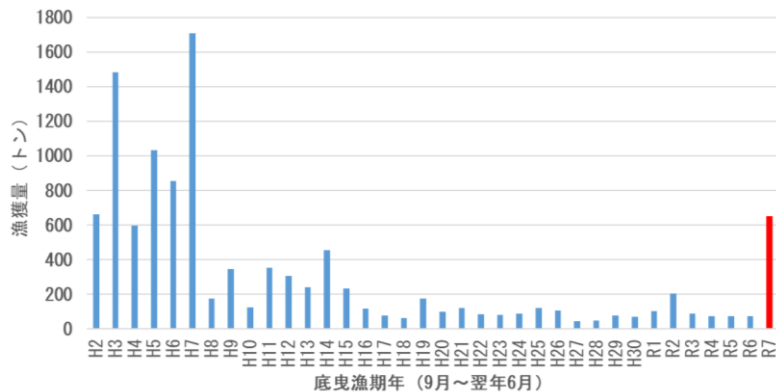


図1. 茨城県におけるスルメイカの漁獲量

（属人集計 小底5t以上+沖底）

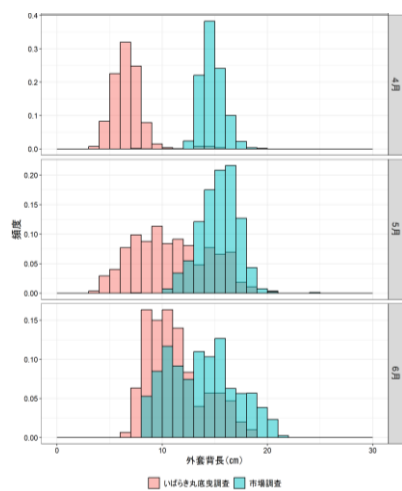


図2. R8年度に漁獲されたスルメイカの外套背長組成

スルメイカの体内にある平衡石という硬組織を取り出して磨くことで、日輪という孵化日から一日一本形成される輪紋が観察できます（図3）。この日輪を数えることで、本県沖で漁獲されたスルメイカが生まれてから漁獲されるまでの日数（日齢）と孵化日を調べることが可能です。水産試験場では「いばらき丸」による着底トロール調査及び市場調査で得られた403個体を対象に孵化日を推定しました。

その結果、外套背長組成と同様に、孵化日の分布は2つの群に分かれました。各群に分類した個体の平均孵化日は、それぞれR7年10月16日頃（秋生まれ群）と、R8年1月9日頃（冬生まれ群）でした（図4）。また、同じ日齢でも秋生まれ群の方が冬生まれ群よりも外套背長が大きい傾向が確認されています。

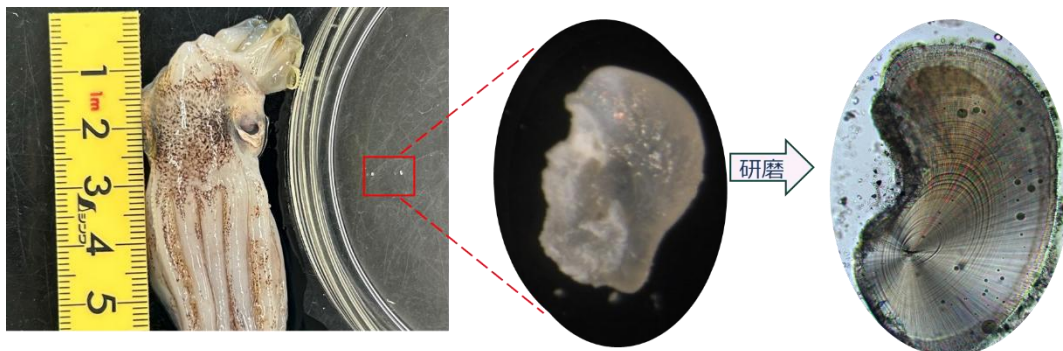


図3. スルメイカの平衡石と研磨により観察される日輪

茨城県では従来、冬生まれのスルメイカを主体に漁獲していると考えられていましたが、秋生まれの個体も多く漁獲されていることが明らかになりました。水産試験場では本県で漁獲されているスルメイカ資源の現状をより正確に把握するために、引き続き調査研究を続けていきます。

（定着性資源部 多賀・谷中・外山・西）

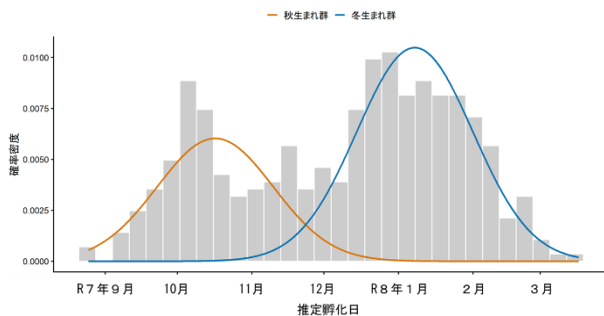


図4. R8年に漁獲されたスルメイカの孵化日分布

【次回予告】

令和8年10月9日発行の水産の窓は「令和8年10月の海況と今後の予測」を予定しています。